

第 6 章 アジア美術館の管理・運営計画

(1) 管理・運営の基本的な方針

アジア美術館の魅力向上の基本的な方針を踏まえ、拡充先における管理・運営の基本的な考え方について、下記のとおり整理します。

① アジア美術との多様な出会いを創出する

子どもから大人まで、さまざまなきっかけで訪れる人々に対して、アジアの多様な美術や文化と気軽に会える場を提供します。

② アジア美術を楽しみ、知る機会を創出する

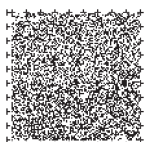
子どもから大人まで、アジアの美術作品が発する多様な問いかけを通じて、自分や世界を見つめる学びの機会を提供します。特に、未来を担う子どもたちにとって、アジア美術をはじめ、多文化や多様性について、楽しみながら体験し、学べる場を提供します。

③ 多様な主体の活動・交流の促進

アーティストや美術関係者、ボランティアなどの多様な主体が、美術館活動に参画し、交流できる機会や場を提供することで、つながりを深め、継続的に関わりを持てる環境づくりを進めます。

④ 公園との一体化・連携

天神の中心に位置する公園と連動した開かれた施設として、にぎわいの創出と、多様な来館者が安心して過ごせる環境づくりと、地域の安全・安心に貢献する運営を促進します。



(2) 拡充先の管理・運営の具体的な考え方

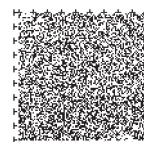
上記の基本的な考え方や、現状の運営面、警固公園の来訪傾向等を踏まえ、拡充先における管理・運営のあり方について、より具体的な考え方を整理しました。

① 開館時間・開館日

- 警固公園では、平日や朝・夕方の公園来訪者が多いため、こうした動向に合わせた開館時間や休館日の設定が重要と考えられます。
- また、外国人観光客は夜間の来訪が多く、夜間利用の需要が見込まれるため、そのニーズに応える開館時間やサービスの検討が求められます。
- 多くの人でにぎわう天神エリアの特性や公園来訪者等の特性を踏まえ、ターゲットに合わせた開館時間や、展示室以外のスペースの夜間活用等、利用目的に応じた柔軟な運用を検討します。

② 施設の活用の考え方

- 夜間や非展示時間帯も活かしながら、講演会、レセプション、企業イベント等のユニークメニューとしての利用を推進します。
- 展示室以外でも楽しみ、滞在できるオープンなスペースを整備し、誰もが気軽に立ち寄り、さまざまな来館目的に応えられる運用を図ります。
- 作品保護や安全確保を前提に、ロビー等のパブリックスペースを柔軟に活用できる運営ルールを整備します。
- 地上の公園と連携し、にぎわいの創出につなげます。
- 周辺の施設や企業と連携した、文化的なイベント等の実施を検討します。
- イベント等を通じて新たな来館層の掘り起こしと、アジア美術館の認知向上を図ります。
- にぎわい創出やユニークメニュー等での活用のあり方については、今後検討していきますが、展示される作品についての販売は行わないものとします。



③ 広報活動の充実

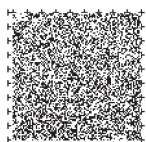
- SNSやウェブサイト等を活用し、展覧会や収蔵作品等の情報を積極的に発信します。
- 観光客向けに、旅マエ・旅ナカでアクセスしやすい情報発信を行い、利用促進につなげます。
- 開館前から、施設拡充の検討や工事の進捗状況等について、様々な媒体を通じて情報発信し、期待感を高め、開館後の利用促進につなげます。
- 情報発信を通じて、市民や来館者との相互コミュニケーションを活性化させ、アジア美術館への関心や愛着を高めることで、多様な主体による自主的な活動や参画を促進します。

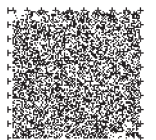
④ デジタルの活用・DXの推進

- 最新のデジタル機器や技術の導入を進め、映像・音響・メディアアート等、多様化する近現代美術の展示ニーズに対応できる展示環境の充実を図ります。
- デジタルコンテンツ開発、デジタルアーカイブ化等を推進します。
- デジタルを活用し、国内外へアジア美術の魅力を広く伝えるとともに、遠隔での体験から来館につながる仕組みづくりを行います。
- デジタルを活用し、サービス向上と効率的な運営を図ります。

⑤ 安心安全の確保・効率的運営

- 防災性を確保し、高い危機管理能力を備えた管理体制を構築し、来館者が安全、安心に過ごせる環境を整えます。
- 市民の財産である美術品を適切に保護するため、万全なセキュリティ体制を確保します。
- 民間活力の導入や、専門家による知見を活用し、サービス向上と来館者拡大に努めます。
- 広告収入や協賛、支援者拡大等の多角的な収入確保に努めるとともに、持続可能で自立性の高い運営体制を検討します。
- 多様な主体が活動や交流に関わることができ、人々の活動の場や居場所となるような仕組みや運営体制を検討します。





第 7 章 基本計画の実現に向けた事業手法

(1) 基本的な考え方

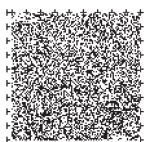
施設拡充の検討にあたっては、公共の財政負担の低減や施設の効率的な運営を図ることを基本に、多彩なデザイン提案を募ることができる設計者の選定手法や、来館促進や美術館運営、施設管理の効率化など整備、運営面における民間ノウハウの活用を含めた事業手法について、以下の考え方を踏まえつつ、民間事業者の意見を参考にしながら、検討していきます。

① 整備面における考え方

- 天神の中心に位置する警固公園に施設拡充を行うにあたっては、公園との一体化や象徴的なエントランスをはじめとする建築の意匠性、アートを感じられる屋外空間の創出など、魅力的な建築・空間デザインが必要不可欠となるため、多彩なデザイン提案を募ることができる手法の検討が必要です。
- 美術館の基幹機能を維持し、運営や活動の独自性、柔軟性、継続性を確保できる施設整備が必要です。
- 福岡の新たな顔となる施設であり、地下空間特有の浸水対策や災害対応など、事業の特殊性を踏まえた十分な配慮が求められることから、本市の関係部署と連携して取り組むとともに、民間の知見を活かしながら、施設整備の実現に取り組めます。
- 来館促進やにぎわい創出に資するサービス機能において、民間の創意やノウハウを活かすことができる施設整備について検討することが必要です。
- 整備の進捗状況も継続的にお知らせし、本事業への市民の理解促進に取り組めます。

② 運営面における考え方

- これまでの先駆的な取組みの継続により培ったアジア美術館の文化的意義や評価などの強みを最大限活用できるよう市が引き続き担っていきます。
- 美術館運営、施設管理の効率化や美術館の利用活性化のため、民間ノウハウを活用した体制の検討が必要です。



〈官民の役割分担イメージ〉

市が担っていくもの	民間のノウハウ活用が期待できるもの
<ul style="list-style-type: none"> ● アジア美術館収蔵品の収集、保管、調査研究 ● 収蔵品の適切な展示、公開 ● 教育普及活動 	<ul style="list-style-type: none"> ● 維持管理業務の効率化 ● 行き届いた接遇等の利用者サービス ● 美術館の集客向上や多様な利活用を図るサービスの提供

〈事業手法の例〉

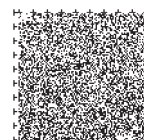
事業手法	特徴
分離分割発注 (従来方式)	● 資金調達は公共が行い、施設の設計、工事、維持管理、運営を民間に分離分割発注する方式。
DBO方式	● 資金調達は公共が行い、設計、施工、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。
PFI-BTO方式	● 資金調達は民間が行い、設計、工事、維持管理、運営を民間に一括で発注する方式。

(2) 設計手法の検討について

第5章第2節「拡充先における施設整備の基本的な方針」に沿った施設とするためには、より魅力的な建築・空間デザインが必要であるため、基本設計を対象とした公募を実施し、多彩なデザイン提案を募ります。

(3) 事業手法の検討について

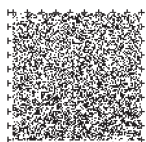
事業手法の検討にあたっては、コストや財政負担など定量的な評価のほか、施工の実現性や民間事業者の事業参画性などの観点から定性的な評価を行い、検討します。その中でも、エントランスなど警固公園(地上部)に必要となる施設については、公園等との連携の考え方や公園として考慮すべき視点に留意したうえで、規模や配置、美術館としての統一的なデザイン性、地下構造物への影響等を踏まえ、民間ノウハウの活用の可能性も含め検討します。



参考資料

アジア美術館の概要(2025(令和7)年4月時点)

名称	福岡アジア美術館	
設置者	福岡市長	
設置目的	アジアの美術を通じてアジアの人々と交流する場を市民に提供することにより、市民の教育、学術及び文化の発展に寄与する (福岡アジア美術館条例第1条)	
設立年月日	1999(平成11)年3月6日	
所在	福岡市博多区下川端町3番1号(博多リバレイン)	
収蔵品数	約5,700点	
職員数	30名 総館長、館長、運営課、学芸課等	
面積	建物面積 151,595.51㎡のうち区分所有専有面積9,101.05㎡ 土地面積(共有持分) 宅地15,932.95㎡のうち持分1,000,000分の113,856 主要諸室面積 コレクション展示室 1,111㎡(7F) 貸展示室(巡回展等) 1,005㎡(7F) 貸展示室(市民向け) 370㎡(8F) 収蔵庫 503㎡(8F) ホール(100席) 172㎡(8F)	
構造	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下4階地上13階のうち地下1階～地上9階の一部	
入館者数等	入館者数380,306人 観覧者数80,706人 ※2024(令和6)年度実績 (参考：福岡市美術館 入館者数667,556人 観覧者数241,415人)	
沿革	1992(平成4)年6月	市長、アジア近代美術館の建設意向表明
	1999(平成11)年3月	博多リバレイン竣工式
		開館
		開館記念展開催(～6月) 「第1回福岡アジア美術トリエンナーレ1999 (第5回アジア美術展)」
	2014(平成26)年9月	「第5回福岡アジア美術トリエンナーレ」開催(～11月)
	2019(平成31)年1月	開館以来の観覧者が500万人を超える
2024(令和6)年3月	開館25周年を迎える	



このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

計画策定のこれまでの経緯

年	月	項目	内容
2024 (令和6)	2	議会報告	アジア美術館の現状と課題、課題解決の方向性について報告
	7	第1回 有識者会議※1	議事：アジア美術館の現状と課題及び魅力向上の方向性
	8	第2回 有識者会議	議事：拡充候補地の条件整理
	9	議会報告	機能拡充の方向性、拡充先の条件整理について報告
	10	第3回 有識者会議	議事：拡充先選定にあたっての評価・比較
	12	議会報告	拡充先の土地の評価比較、警固公園地下駐車場の検証について報告 ⇒拡充先について、複数の候補地を評価比較した結果「警固公園地下」を選定
	12	第4回 有識者会議	議事：今後の方向性に関する論点の整理
2025 (令和7)	5	第1回 有識者会議※2	議事：魅力向上の基本的な方針(案)について
	6	議会報告	魅力向上に向けた基本計画の検討状況について報告 (魅力向上の基本的な方針(案))
	8	第2回 有識者会議	議事：魅力向上に向けた各施設のあり方、 拡充先の施設整備の基本的な考え方、 アイデア収集の実施状況について
	8	第3回 有識者会議	議事：拡充先における施設整備について、 施設拡充に向けた事業手法の考え方について
	12	議会報告	魅力向上に向けた基本計画の検討状況について報告 (施設整備について)
	12	第4回 有識者会議	議事：拡充先における施設整備について、 管理・運営の基本的な考え方、美術館の事業手法、 公園の活用手法について
	2	議会報告	魅力向上に向けた基本計画の検討状況について報告 (基本計画(原案))

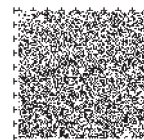
※1 アジア美術館の魅力向上に関する有識者会議

※2 アジア美術館基本計画策定に関する有識者会議

※会議資料等については、下記ホームページに掲載しています。

福岡市 アジア美術館の魅力向上の検討について

https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/faam-miryoku/shisei/ajibi_miryokukoujou.html



拡充先の選定について

• 拡充先選定の条件整理

(拡充先に必要な規模感)

拡充先を検討するために、必要な規模感の想定を行いました。主な機能分担のイメージに基づき、拡充先に設けたい、「展示機能」及び「にぎわい・集客機能」に必要となるスペース、並びにそれに伴う「共用・管理スペース」を既存の国内美術館の事例等を参考に設定しました。

展示機能(コレクションを中心とした多様な企画展示)：2,000～2,500㎡、

にぎわい・集客機能：1,000～2,000㎡、共用・管理スペース：約4,500㎡

⇒床面積の規模想定 約7,500～9,000㎡程度、展示室の高さの想定 約4～5m

※拡充先の検討にあたり、一つのモデルとして想定を行ったもの

(選定の前提条件)

・現在の博多リバレイン内での拡充について

まず、現在の博多リバレイン内での拡充について検討を行いました。検討の結果、低層階は、商業施設、複合施設という性格上、フロア中央部のエスカレーターや屋内通路等の共用部が多く、商業施設、複合施設としての導線確保しながら、美術館として必要なロビーや作品搬出入通路などの共用・管理スペースを確保したうえで、想定するまとまった規模の整形な展示室を確保することは極めて困難であるため、他の土地での検討を行うこととしました。

・拡充先として考えられる土地の前提条件

下記のとおり、拡充先として考えられる土地の選定に必要な前提条件の整理を行いました。

① 拡充先の状態について

計画のしやすさや、土地取得の可能性の高さといった、実現可能性の観点から、公有地を優先とし、空地や活用の可能性が見込める予定の土地等であること

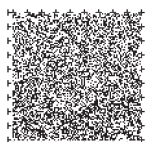
② 拡充先の規模について

・床面積規模の想定 約7,500～9,000㎡程度

・展示室の高さの想定 約4～5m

③ 拡充先が位置するエリアについて

・都心部に位置する土地であること



※下記の視点を元に望まれるエリアを検討したもの

*基本理念を体現できる

- ー「まち」の中のライブな(活き活きとした)美術館、都心型美術館ー
- ・ 都心部に位置する場所、周辺施設(商業施設、オフィスなど)が充実している場所
- ・ 時代を先取りする、最先端の文化発信にふさわしい場所

*気軽に立ち寄れ、より多くの、多様な集客が見込める

- ・ 交通アクセスが良く、人流が多い場所
- ・ 市民を中心とした、オフィスワーカーや買い物客、国内外からの観光客など幅広い目的を持った人々が集まる場所

*美術館の特徴が最大限発揮できる

- ・ 美術館が「福岡の顔」として存在感を示す場所
- ・ 周辺施設と連携しながら、アジアとの交流拠点かつアート、文化観光の核として展開できる場所

● 比較検討の評価項目

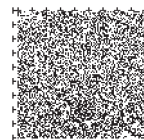
拡充先選定にあたっての評価に必要な評価項目を以下のとおり設定しました。

- ・ 土地の状況(整備の実現性)
- ・ 美術館活動(美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上)
- ・ 利便性(広域からのアクセス、交通アクセス)
- ・ 集客性(歩行者交通量、最寄りの公共交通機関の乗降客数)
- ・ 安全性(安全安心)
- ・ 経済性(土地取得費、建設工事費)

● 拡充先選定にあたっての評価・比較

(対象エリアの検討)

拡充先として考えられる土地が位置するエリアについて検討を行い、都心部のうち、現館との近接性・回遊性や、集客性・にぎわい性、都市機能の集積等が高いエリアとして、「天神エリア周辺」「博多駅エリア周辺」「中洲川端エリア周辺」を対象としました。



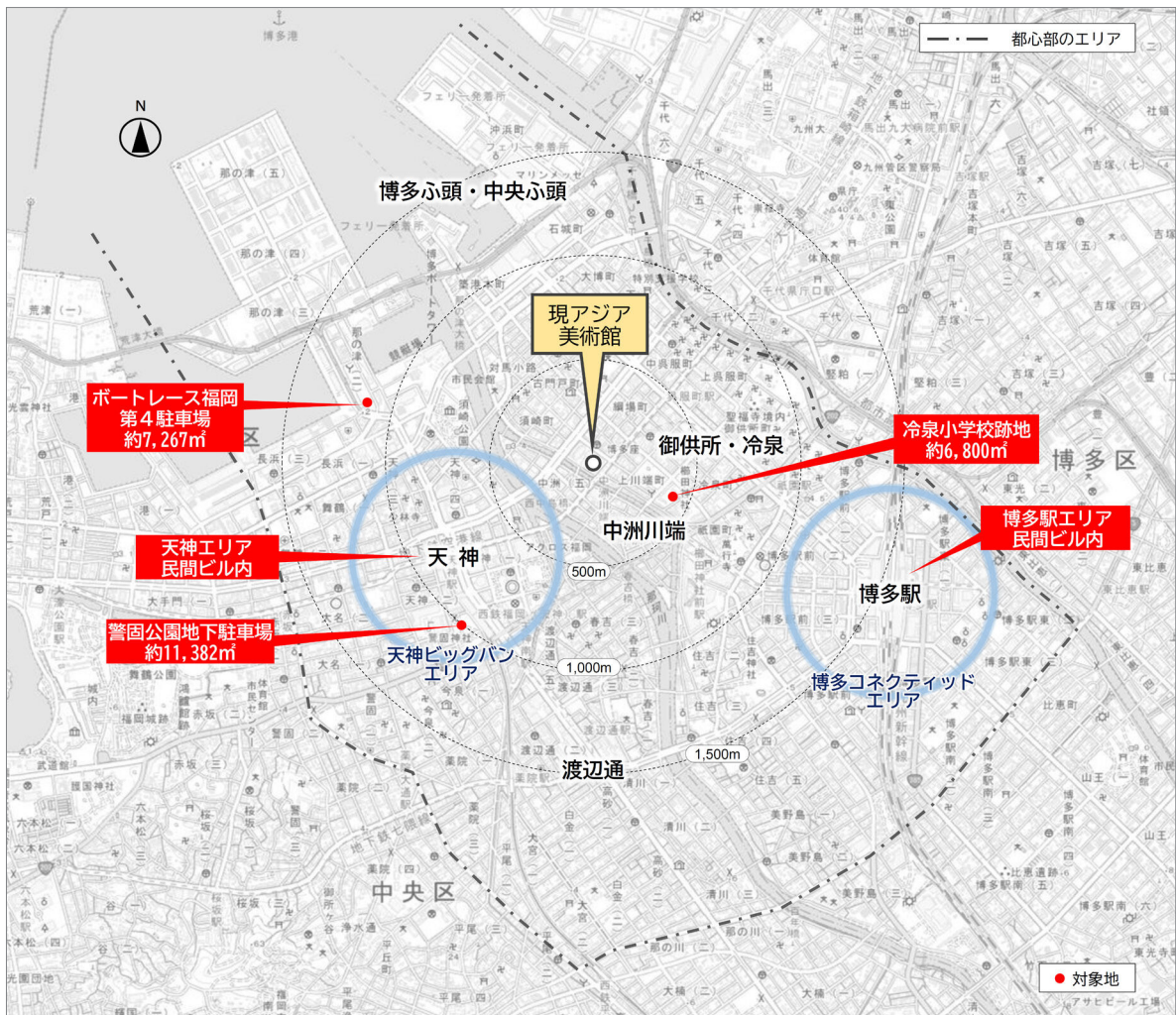
(拡充先として考えられる土地の選定)

選定の前提条件に基づいて、都心部に位置する公有地を優先とし、活用の可能性が考えられる土地や未利用地(跡地)などを洗い出し、それにより、拡充先として考えられる、評価・比較の対象とする土地(対象地)を以下のとおりとしました。

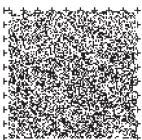
- ・ ボートレース福岡第4駐車場
- ・ 冷泉小学校跡地
- ・ 警固公園地下駐車場(既存利用)
- ・ 天神・博多駅エリアの民間ビル内*

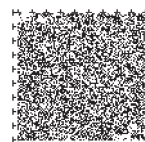
*公有地を優先としますが、比較検討のため、民間用地も含め検討を行いました。

(都心部のうち開発動向が高いエリアとして、天神エリアの天神ビッグバン、博多駅エリアの博多コネクティッドの範囲内にて想定)



対象地の位置図



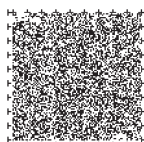


(評価・比較結果)

前述で絞り込んだ対象地について、「比較検討の評価項目」に基づき評価・比較を行いました。

A:非常に優れている5点、B:優れている4点、C:普通3点、D:やや劣っている2点、E:劣っている1点

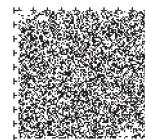
カテゴリー	公有地	公有地	
対象地	ポートルース福岡第4駐車場	冷泉小学校跡地	
概要	土地面積 約 7,267㎡ 美術館を新設	土地面積 約 6,800㎡ 美術館を新設	
土地の規制状況	準工業地域(準防火地域) 臨港地区(商港区) 建蔽率 60%、容積率 300%	商業地域(準防火地域) 建蔽率 80%、容積率 400%	
比較検討の評価項目	土地の状況	<ul style="list-style-type: none"> 現在、駐車場として利用しており、かつ臨港地区により建てられる建物用途に制限があるものの、実現可能性はある 土地取得に際しては、土地を所管する港湾空港局と本格的な協議が必要 1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能 	<ul style="list-style-type: none"> 敷地中央部に遺構が横断しており、これを考慮した施設配置を検討したところ、1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保することが困難
	美術館の魅力向上、地域連携、地域の価値向上	<ul style="list-style-type: none"> 建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できる 周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と比べ少なく、連携が期待しにくい 文化的施設数が現館よりやや少なく、連携が期待しにくい まちへの文化芸術の面的な広がりが期待しにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 当該地は地域をはじめとして、様々な機能の導入が求められており、複合的な施設となる可能性が高く、美術館単体としての象徴的な施設展開が難しくなる懸念がある 周辺の商業事業所数や消費や娯楽等の業種数が現館と同程度であり、連携が期待できる 周辺の文化的施設数が現館と同程度であり、連携が期待できる 市内外から多様な人々が集まり、文化的価値の波及を期待できる
	利便性	<ul style="list-style-type: none"> 主要駅からの到達時間が現館と比べるとやや時間がかかる 最寄のバス停(福岡市民会館)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 	<ul style="list-style-type: none"> 主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 最寄駅(櫛田神社前駅)から現館と同程度の到達時間でアクセス可能
	集客性	<ul style="list-style-type: none"> 歩行者交通量が現館に比べ少なく、昼夜も差があり、やや偏りがある 最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い 	<ul style="list-style-type: none"> 昼夜ともに歩行者交通量が多く、多様な集客も見込める 最寄駅(中洲川端、櫛田神社前駅)の乗降客数が多い
	安全性	<p>安全安心(洪水/高潮)</p> <p>対策可能(約0.5m未満/約3.0m以上)</p>	<p>対策可能(約0.5~1.0m/約3.0m以上)</p>
	経済性	<p>土地取得費、建設工事費*</p> <p>土地取得費+建設工事費 1.3 ※新築工事費を基準(1.0)とする</p>	<p>建設工事費 1.0 ※新築工事費を基準(1.0)とする ※市有地のため土地取得費不要</p>
	総合評価	<p>50点満点 100点満点 換算</p> <ul style="list-style-type: none"> 経済性の評価が比較的優れている 整備の実現性や美術館活動、集客性などの評価が高くない 	<ul style="list-style-type: none"> 経済性の評価が高く、利便性、集客性なども比較的優れている 整備の実現性がやや劣る
有識者からの主な意見	<ul style="list-style-type: none"> 必要な面積が確保でき、建築的自由度が高く、象徴的な施設展開が期待できるという評価は妥当 付近に新しく市民ホールが整備されるものの、総合的に周囲との連携が期待しにくい土地と考えられる 多くの市民や来訪者の利便性を考えると、さらに評価は低下する このエリアにおける上位計画との整合性を検討する必要がある 	<ul style="list-style-type: none"> 博多部において歴史・文化の観点から重要な場所に位置していると考えられる 敷地を遺跡が横断しており、美術館を拡充するにあたっての面積が十分に確保出来ないため、評価が低いことは妥当 車両が通り抜けできない道があり、この土地の接道条件を踏まえて、美術品輸送の大型車両の動線は検討する必要がある 	



※拡充先を選定するにあたり、重要な視点である、「整備の実現性」、「美術館活動」、「集客性」、「経済性」は2倍として評価する
 ※土地取得費・建設工事費について

- ・土地の取得を基本的な条件とし、土地取得費には建物取得費も含む
- ・約7,500㎡～9,000㎡の床面積の規模感において、美術館の内装工事費を想定して試算
- ・建設工事費には外構工事(公園整備費等)、備品購入費(展示ケース等)等は含まないものとする

公有地		民間用地	
警固公園地下駐車場		天神・博多駅エリアの民間ビル内	
土地面積 約 11,382㎡ 既存地下駐車場の構造物を活用		民間ビルの低層階に占有	
商業地域(防火地域) 都市公園法により建蔽率 12% 容積率 400%, 600% ※既存公園施設含む		商業地域(防火地域) 建蔽率 80%、容積率 600% ※想定	
<ul style="list-style-type: none"> ・都市公園法による建蔽率の制限があり、地上部の建築計画に制限があるものの、既存の地下構造物を活用可能であり、実現可能性が高い ・1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能 	B 4点 ↓ (8点)	<ul style="list-style-type: none"> ・低層階への配置が望ましいが、民間の開発動向に左右され、美術館配置に関する協議調整・合意形成に時間を要するなど、実現性が不透明 ・1フロアで一体的に利用可能な広い展示室を確保可能 	D 2点 ↓ (4点)
<ul style="list-style-type: none"> ・地下であるものの、地上の公園を活かした象徴的な施設展開、周辺施設と連携した活動の展開が期待できる ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・公園を介して、まちへの文化芸術の面的な広がりが期待できる 	A 5点 ↓ (10点)	<ul style="list-style-type: none"> ・複合的な施設となり、建築的自由度は施設の状況により左右される可能性がある ・周辺の商業事業所数、消費や娯楽等の業種数が非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・周辺の文化的施設数が現館よりも非常に多く、エリアの核として連携が期待できる ・ビルを中心とした文化芸術のまちへの広がりを期待できる 	B 4点 ↓ (8点)
<ul style="list-style-type: none"> ・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(西鉄天神福岡駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能 	A 5点	<ul style="list-style-type: none"> ・主要駅から現館と同程度の到達時間でアクセス可能 ・最寄駅(天神駅・博多駅)から現館よりもやや短い時間でアクセス可能 	A 5点
<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅)の乗降客数が非常に多い 	A 5点 ↓ (10点)	<ul style="list-style-type: none"> ・昼夜ともに歩行者交通量が非常に多く、多様な集客も見込める ・最寄駅(天神駅・博多駅)の乗降客数が非常に多い 	A 5点 ↓ (10点)
対策可能 (約0.5～2.0m/約3.0m以上)	C 3点	対策可能と考えられる	C 3点
建設工事費 1.0 ※基準である新築工事費(1.0)とほぼ同額 ※市有地のため土地取得費不要	A 5点 ↓ (10点)	土地取得費(建物取得費含)+建設工事費 3.0～3.8 ※新築工事費を基準(1.0)とする	D 2点 ↓ (4点)
<ul style="list-style-type: none"> ・美術館活動や利便性、集客性、経済性の評価が高く、その他の項目についても比較的優れている 	46点 ↓ 92点	<ul style="list-style-type: none"> ・利便性、集客性の評価が高い ・整備の実現性、経済性がやや劣る 	34点 ↓ 68点
<ul style="list-style-type: none"> ・地下だが必要な面積も確保できる等美術館としての利用は可能と考えられ、地上部の公園との連携も期待できる ・地下特有の課題(地下水や埋設物等)に対する検討が重要 ・既存構造物の再利用をすることは、環境負荷の低減が期待でき、行政としても非常にチャレンジングで評価に値する 		<ul style="list-style-type: none"> ・民間ビルに公共施設が一緒になることによって総合的に都市デザインに繋がっていくことは意義があると考えられる ・ビル全体のコンセプトや開館時間、将来の更新計画等、開発計画のみならず開館後の運営面でも民間ビル側の意向にかなり左右されることが懸念される ・開発計画からの調整となると、かなりの時間を要すると考えられ、実現性が不透明というのは妥当 	



※警固公園地下駐車場の検証

警固公園地下駐車場について、既存構造物の構造的な検証、美術館としての活用可能性の検討を行いました。

(既存構造物の構造的な検証)

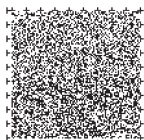
警固公園地下駐車場の既存構造物が、美術館として活用することが可能な構造的な健全度を有しているか確認するため、コンクリート圧縮強度試験、中性化深さ試験、鉄筋の腐食状況、ひび割れ・漏水状況調査を行いました。調査の結果、構造的に致命的な欠陥となり得る劣化等はみられず、今後の改修において必要な対策を行うことで対処が可能であり、また、構造的な安全性の確認を行った結果、高い構造的耐力と耐震性を有する健全な構造物であることが確認できました。

(美術館としての活用可能性検討結果概要)

展示室として必要な規模感として想定した、床面積約2,000～2,500㎡程度、高さ約4～5m程度の空間が確保できるかを確認したところ、必要な補強を施せば、上記の空間の確保が可能であることを確認しました。

●評価・比較

対象とする複数の土地について、比較検討の評価項目に基づき、評価比較をした結果、地上の公園を活かした象徴的な施設展開、周辺施設と連携した活動の展開が期待できることなどから、「警固公園地下」を拡充先としました。



WEBサイトはこちら



令和8年●月 編集発行
福岡市経済観光文化局アジア美術館 魅力向上検討担当

〒812-0027 福岡市博多区下川端町3-1 リバレインセンタービル8階

TEL 092-263-1107 FAX 092-263-1105

https://www.city.fukuoka.lg.jp/keizai/faam-miryoku/shisei/ajibi_miryokukoujou.html

このマークは目の不自由な方などが使う音声コードです

